

読書は心の糧



保護者による読み聞かせ(北小)



ボランティアによる読み聞かせ(下中)

手が届くところに本がある。本を開き、自分の世界に浸ることができる喜び。楽しんで読んでいるうちに、知らず知らず自分の中に知識が蓄えられ、想像したり考えたりするようになります。下諏訪町の小中学校では「朝読書」と呼ばれる朝の読書の時間があります。自分で読むことはもちろんのこと、先生や保護者、あるいはボランティアの方々による読み聞かせもあり、食い入るような目で熱心に聞いています。また、高学年や中学生になると、心で聞くことができるようになります。

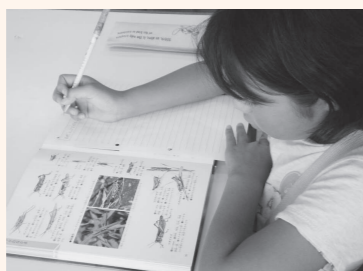
各校では、工夫を凝らして、進んで子どもが本に関わり、読書に浸ることができる時間や場を作っています。小学校では朝読書の時間のほかに、毎週一時間、図書館での読書の時間をとっています。返却や貸出しが終わったあとは、読み聞かせや読書、あるいは数人で本を見合ったりします。

Ⅲ 本を楽しむ ～小中学校で～

読書は知識の宝庫



「自然マップ」調べ学習(南小)



インターネットと本の検索との違いは、情報の質と確かさにあるようです。著者や出版元がはっきりしていること、また大勢の人による何回もの編集会議を経て一冊の本ができるため、いろいろな見方や考え方が内包された確かな情報になっていると言われています。インターネットの利便性も捨てがたいので、「インターネットか本か」などと考えず、時と場合によって使い分けたいものです。

Ⅳ 本で調べる ～小中学校で～

授業では、課題に沿った調べ学習も行われます。南小四年二組では、総合的な学習で、図書館を利用して「自然マップをつくる」のテーマのもと各自が「サワガニ」「クマバチ」「バッタ」など自分の興味ある課題について、図鑑などを使って「調べ学習」を行っています。

インターネット検索の方が速くて簡単なので、どうしてもそちらの方に流れがち但现在ですが、本による「調べ学習」を学校では大事にしています。

教育委員会からのお知らせ

町民大学 一下諏訪を学ぶ一

演題：「下諏訪の文学(4)」 講師：島木赤彦研究会長 小口 明
日時：12月5日(日) 午後1時30分～午後3時 会場：文化センター集会室

1回目は、古事記から中近世、近代赤彦までの下諏訪の文学系譜。2回目は町来訪文学者の町内取材作品(推理小説も)の紹介。3回目は昭和初期不況期の下諏訪を描いた文学作品の紹介をしてきました。今回は赤彦の「アララギ派」に加わり活動し、全国に影響を与えた町出身の歌人、久保田不二子(赤彦夫人)、今井邦子、五味保義の、町を詠んだ作品を手がかりに、経歴や業績を紹介していただきます。

〈問合せ・申込先〉下諏訪町公民館 28-0002

本の好きな子どもを育てる

「学校・地域と連携した家庭読書の推進」を、下諏訪町では本年度の社会教育の重点としています。前号では国民読書年や読書について特集しましたが、今号では「本の好きな子ども」を育てるために町図書館や保育園、各小中学校ではどのように取り組んでいるのか、ご紹介します。

Ⅰ 本と出会う ～乳幼児に～

町では、ブックスタート事業として生後六カ月たつと、子どもには絵本『いないいないばあ』、そのご家庭には『かわいがり子育て』の二冊をプレゼントしています。お母さんにだっこされ、絵本を見ながら手遊びしたりしながら親子のスキンシップを図っています。

これをきっかけに、町図書館では、二歳児検診の時に、読み聞かせや親子で本に親しむ機会をつくっています。大きな絵本が小さな子どもの心をひきつけます。お母さんが一緒にいなくても一人で、読んでくれる図書館の方とお話ししながら絵本を楽しんでいます。



大型絵本とおはなし



おはなしのへやプチ

Ⅱ 本に親しむ ～入学するまで～

本に興味を持った親子は、町図書館で行われている「おはなしのへやプチ」(毎週木曜十一時から)へ。毎回、二十組くらいの親子が楽しんでいます。三歳前の小さな子どもでも熱心に見たり聞いたりして、お話の世界へひきこまれていきます。回を重ねるごとに、集中力や想像力が育っていきます。

言葉で育つ・言葉が育つ

<第3保育園>



ともだちと絵本を見合う



おひるねの前に読み聞かせ

三歳になると、「おはなしのへや」(毎週土曜十一時から)が待っています。成長に見合った、おもしろい本の読み聞かせやお話、手遊びなどで楽しい時間を過ごします。

町内の保育園でも、朝やお昼寝の前、帰りのときなどをとらえて、毎日読み聞かせをしています。また、給食が終わり昼寝の前になると、教室内や廊下の本棚から好きな本を取り出して、あちこちで友だちと話しながら見ている姿があります。

見せていただいた第三保育園にはおよそ二千冊の絵本がありました。他の保育園も同様で、保育園としては大変充実しているようです。

「子どもの身近に本を！」保育園では毎週曜日を決めて、全員が家に本を借りていきます。

きっと家に帰って、親子でふれあいながら、楽しく絵本を読んでいることでしょう。